



学校だより

平成29年 4月28日
横浜市立茅ヶ崎東小学校
校長 山下 浩
都筑区茅ヶ崎東2-11-1
943-0802・0803

雨

学校長 山下 浩

春の雨は、植物にとって恵みの雨です。この頃に降る雨にはさまざまな名前が付けられています。花の開花を急かすように降る雨を「催花雨（さいかう）」、雨が降って百穀を潤すという意味からきている「穀雨（こくう）」などがあげられます。今の時期はやわらかい春雨が降る日が多くなります。しとしとと降る雨は気が重くなりがちですが、植物が生長するために必要な雨です。つまり、私たちが生きるためにも必要な恵みの雨でもあるのです。そう思うと元気がでます。



「～雨」となるよく聞く言葉をあげてみました。「大雨（おおあめ）」、「豪雨（ごうう）」、「雷雨（らいう）」、「暴風雨（ぼうふうう）」、「霧雨（きりさめ）」、「小雨（こさめ）」、「長雨（ながあめ）」、「五月雨（さみだれ）」、「天気雨（てんきあめ）」、「通り雨（とおりのあめ）」。これらの言葉は全て雨に関するもので、降り方や降る時期、その他の微妙なニュアンスによって使い分けられています。日本語は、一つの言葉でいろいろな意味をもっていたり、逆に一つのことをいろいろな言葉で表現したりと、ちょっと使い方が難しいものもあります。しかし、その複雑さが日本語の魅力でもあります。調べてみると、このような雨につけられる日本語の名前は400以上もあるらしいです。日本では400種類もの雨が降ることになりますが、これは、ちょっと驚きです。それだけあると、普段は使われないようなものもたくさんあると思いますが、自然と調和して暮らしてきた日本人の感性があってこそこのこれだけの種類といえます。

時として、自然は学校経営に難題を向けてくることがあります。私たち人間は自然の中の一部であるという謙虚さを忘れずに冷静に対応して行きたいと思います。

新学期がスタートして一ヶ月が経とうとしています。子どもたちは、新年度からスタートした学校生活にもなれ、いきいきと過ごしています。授業では、教師や友達の話をしっかり聞きながら真剣に学習に取り組んでいます。引き続き子どもたちにとってよりよい環境を提供してまいります。ご支援ご協力の程お願い申し上げます。